

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

令和2年5月1日

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		○		医療用カーテンを増設し、重度の利用児のトイレ介助や落ち着きのない子が落ち着くためのスペースとして活用している。しかし、重度の利用児が大きくなり、バギーから降りる際に広いスペースが必要になり、狭く感じることもある。
	②	職員の配置数は適切であるか		○		保育士、看護師、機能訓練担当職員等、利用児に合わせて必要な職員を配置しているが、利用児の数に対して職員が十分に足りていない。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		入口がスロープとなっているが、利用児の成長に合わせて大きくなっていくバギーに対して狭く、通り辛い状況になっている。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクルに広く職員が参画しているか		○		業務終了後や定期的なミーティングの際に情報共有を行っているが、非常勤職員を含めた会議が課題となっている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			適宜実施している。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			ホームページにて公開している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			保護者に対してアンケートを実施、集計して職員間で共有している。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			年度初めに事業所内研修を実施したり、地域で開かれている講演会などに積極的に参加している。
適切な支援	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			半年ごとに保護者と面談を実施したり、担当の相談支援員と情報交換を行ってニーズに応じた計画書を作成している。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		利用児が外部機関で受けた検査結果を共有することはあるが、事業所内で使用したことはない。必要な場合は導入を検討する。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			療育時間外に職員間で相談している。

の 提 供	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		可能な限り検討し、各利用児が均等に体験できるように工夫している。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○		平日は宿題をメインに支援し、休日は歯磨きや昼食準備の手伝い等、その日に応じた課題を設定して支援している。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○		保護者との面談をもとに利用児に必要な課題を把握し、専門スタッフによる特別支援計画を作成している。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		1日ごとに配車表と利用児リストを作成し、支援開始前に職員間で打ち合わせを行っている。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○	極力行っているが、各担当の送迎時間にばらつきがあり、非常勤職員も含めた全職員との振り返りは難しい状況ではあるが、可能な限り行っている。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		支援終了後に記録を取り、職員間で共有しながら支援に改善につなげている。

関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	⑱	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画見直しの必要性を判断しているか	○		半年ごとに保護者と面談を実施している。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○		宿題や製作に取り組み、共に達成感を味わったり、皆の前で帰りの会の日直を進行することで集団生活に対する自信を養う支援を行っている。長期休暇期間は地域の行事やイベントに参加するために外出する機会を多く取り入れている。
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加しているか	○		児発管をはじめ、その子どもの支援に最も適した有資格者が複数人で参加している。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○		保護者を通じて連絡ノートや個別支援計画を提出して支援目標を共有している。送迎時間等連絡が学校と取り辛いこともあったが、担当の相談支援員とも相談し、対応している。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合、主治医等と連絡体制を整えているか	○		利用開始前に主治医から指示書をいただき、いつでも連絡を取れるようにしている。また、同行受診などはできませんが、疑問点など母に伝え、受診時主治医に聞いてもらう等している。

関係機関や保護者との連携	②③	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○		担当の職員から利用児に関する情報を直接話したり書類を通して情報共有を行い、スムーズに受け入れることができた。
	②④	放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、支援内容等の情報を提供する等しているか	○		卒業を控えている高3年生の利用児の様子を今後利用しようとしている生活介護事業所や相談支援事業所に伝えている。
	②⑤	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		各地域の相談支援や児童相談所によるケース検討会や当施設に訪れていただいた際に利用児についての情報を得ている。
	②⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○	土曜日運営がなくなり、外出体験する機会が減ってしまったが、夏休みや冬休みではリトミックやイルミネーションに出かけることができた。
	②⑦	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○		案内が届いた際は積極的に参加している。
	②⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		連絡ノートや送迎の際に学校での様子も含め子どもの1日の状況を伝えるようにしている。

	②⑨	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		○	半年ごとの面談等で保護者から話を伺い、助言する場合もあるが、技術的な支援は行っているわけではない。
保護者への説明責任等	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約の際に重要事項説明書を配布し、口頭での説明も行っている。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		面談や連絡ノートを通じて、適宜行っている。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○	法人で実施される保護者会や学校のPTA行事がある時は、保護者が活動しやすいように利用児を受け入れたり、送迎時間を調整する等をしている。また、同じ学校の保護者のグループと意見交換し、療育に活かしている。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		連絡があった際、ただちに職員間で情報を共有し、対応するようにしている。また、ヒヤリハットを作成し、職員間でも問題を共有できるようにしている。
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		○	法人による会報や、長期休暇期間の活動日程、連絡先等のお便りを配布している。十分な情報が発信できているとはいいがたい。
	③⑮	個人情報に十分注意しているか	○		匿名性を心がけ、記録、管理をしている。

	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			子どもや保護者に伝わりやすい資料作りや迅速な電話連絡を心がけている。言葉が話せない利用児には日常的に使用しているマカトン等を共有し、意思疎通している。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			○	必要に応じて今後企画していく必要がある。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			資料を作成し、配布している。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			定期的に火災や利用児の発作を想定した通報、避難訓練を療育中に実施している。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			研修への参加や、資料を読み合わせている
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			身体拘束が必要となる利用児が今のところいないが、命の危険がある場合等、やむを得ない場合は実施する可能性があることを重要事項説明書に記載している。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか			○	アレルギーのある利用児が今のところいない。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			ヒヤリハットの作成による職員間の共有や職員会で対応策を検討するようにしている。